世界柔道選手権タシケント大会 2022

令和４年 10 月６日から 13 日までの間、ウズベキスタン共和国タシケントで実施された 2022 世界柔道選手権大会に、本校柔道班の濵田尚里１等陸尉及び新添左季３等陸尉 が参加した。

世界選手権 新添 個人初代表 銅

10 日（月）に登場したのは、世界選手権個人初代表となる 70kg 級日本代表の新添３尉。女子 70kg 級は、過去のオリンピックで最も多くの（日本人女子）金メダリストを輩出している階級だ。今大会は 44 名が参加し、新添３尉は初戦からベネズエラ、モンゴル、フランスを相手に順当に勝ち進み、準々決勝では、東京オリンピック銀メダリストのポラレス選手（オーストリア）と対戦し反則勝ちで準決勝に進出した。

準決勝はシビチェンコ選手（クロアチア）と対戦。組み手を嫌がるシビチェンコ選手に対しなかなか良いところを持つことができず、新添３尉に指導が２つ、シビチェンコ選手に指導が１つでゴールデンスコアを迎える。あとがない新添３尉は、技をかけようと必死に攻めるが、３つ目の指導が入り惜しくも反則負けで３位決定戦に回ることとなった。

銅メダルを懸けブートケライト選手（ドイツ）との決定戦、序盤は積極的に技を出す相手に苦戦したが、中盤に膝車で技有を奪い優勢勝ちで見事銅メダルを獲得した。試合後、新添３尉は「目指していた結果ではなく満足はしていないが、3 位決定戦で勝ちきれてよかったです。（敗れた準決勝については、）組み手に手こずって先手先手で（相手に）行かれてしまったので、課題が多く残りました。」と反省を口にした。

濵田 惜しくも 5 位

11 日（火）には、３度目の世界選手権出場となる 78kg 級日本代表の濵田１尉が登場した。濵田１尉の背中には、直近オリンピック金メダリストの証であるゴールドゼッケンがついている。

初戦から、韓国、イギリス選手を相手に寝技による１本勝ちを収め、迎えた準々決勝の相手は 2014 年及び 2017 年に世界チャンピオン、2020 東京オリンピックでは銅メダルを獲得しているアギアル選手（ブラジル）。開始早々、技を仕掛けて崩れたアギアル選手に寝技で襲い掛かり、必死に防御する相手を仕留めにかかるが、審判から「待て」の合図 がかかる。再び組み手と足技の応酬となった中盤、するどく内股を仕掛けた濵田１尉に対し、返しを狙っていたアギアル選手の内股返に １本負けを喫した。続いて、敗者復活戦では昨年の世界選手権王者であるワグナー選手（ドイツ）と対戦。東京オリンピックの準決勝では寝技で濵田１尉が勝利している。長身のワグナー選手に組み手から立ち技を仕掛け、寝技の姿勢になると一気に攻撃し自分のペースにした濵田１尉は、一瞬の隙をつき大内刈で１本勝ちを収め、進化した一面を見せた。

今大会で新たな課題を見つけた濵田１尉

銅メダルを懸けた３位決定戦では、リトビェネンコ選手（ウクライナ）との対戦。開始早々、組み手を嫌がる相手をつかまえようとしたところ、勢いを利用したリトビェネンコ選手の膝車により １本をとられ試合終了。濵田１尉は５位で今大会を終えた。試合後、「最後は勝って終わりたかったです。良いところ悪いところと出た試合でした。切り替えて次の試合で勝てるようしていきます。」と語った。

混合団体 5 連覇

13 日（木）最終日には、日本が４連覇中の混合団体戦が実施された。女子 70kg 級には 新添３尉がエントリー。準々決勝から出場した新添３尉は、オランダ、ドイツの選手を相手に１本勝ち、日本チームの決勝進出に貢献した。決勝の相手国は、昨年の東京五輪で混合団体金メダルを獲得しているフランス。3-2 の日本リードで迎えた最終対決に、新添 ３尉が登場した。相手は、2019 年の世界選手権王者のガヒー選手。これまでの戦績は６勝３敗で新添３尉が勝ち越しているが、混合団体 ５連覇を懸けた対戦のため大きな重圧がかかる。激しい組み手争いや駆け引きで、新添 ３尉の技を警戒する相手になかなか技が決まらない。残り１分 30 秒を過ぎたところで足技で崩した相手の隙をつき、襟をとった新添３尉が素早く締め技に入り、送襟絞で１本勝ちし日本の５連覇が決定した。

試合後に新添３尉は、「個人戦で悔しい思いをしたので、その気持ちを団体にぶつけよう と思っていました。貢献できたとホッとしています。これがスタートなのでパリに向けてグランドスラム東京から １試合１試合結果を残していきたいと思います。」と今後にむけた意気込みを語った。

世界トップ選手である２名の戦いは、12 月のグランドスラム東京に続く。

自衛隊体育学校ホームページより引用